

令和7年度 授業改善推進プラン 成果と課題

担当教科（ 数 学 ） 学年（ 1 学年 ）

目指す授業

基礎・基本の定着を図り、学習できる授業



授業・アンケート等の課題分析

- ・授業アンケートのどの項目も、85%程度の生徒が肯定的に回答しており、授業でも前向きに取り組んでいる生徒が多く見られる。
- ・1つ以外の項目は、5～6割程度の生徒が「当てはまる」、2～3割程度の生徒が「どちらかといえば当てはまる」と回答している。
- ・1、2学期のアンケート結果より、すべての項目で高い数値が見られた
- ・「授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されている」と「数学の授業で「学ぶ楽しさ」を感じる」の項目が他の質問項目より肯定的な回答の割合が低く、「どちらかといえば当てはまらない」が15%であった。



成果と課題

成果

- ・授業中に話を聞くことや課題への取り組み方の積極性が見られた。
- ・タブレットの活用や計算の反復練習を行うことで、計算が苦手であった生徒も積極的に取り組む姿が見られ、計算が少しずつ速くなっている。

課題

- ・授業内で自分の考えを発言する機会を増やすことで学び合いの学習をより多く設定すること。
- ・苦手意識がある生徒も前向きに取り組めるような授業展開と発問をし、わかりやすい授業を作ること。
- ・目標の提示と振り返りを設定し、生徒が意識して授業に取り組めるようにすること。

令和7年度 授業改善推進プラン 成果と課題

担当教科（ 数 学 ） 学年（ 2 学年 ）

目指す授業

数学の楽しさやよさを実感し、主体的に学習できる授業



授業・アンケート等の課題分析

- ・すべての質問に対して、「当てはまる。」と「ほとんど当てはまる。」を合わせて90%以上の結果が出ている。また、ほとんどの質問で「当てはまる。」が70～80%の数値が出ていた。この結果から2年生は、主体的に学習を始めている生徒が多くなっている。特にタブレット端末を利用した家庭学習や提出物等の取り組みが、学年全体で提出状況が良くなっている。
- ・[数学の授業で「学ぶ楽しさ」を感じる。]で5%の生徒が「どちらかといえば当てはまらない。」を選択していた。
- ・[授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されている。]に関しても、「当てはまらない。」と「ほとんど当てはまらない。」が6%だったので、全員が意識できるような目標を提示する。



成果と課題

成果

- ・新しい考えを構築する数学的活動やICT機器を利用した継続的な家庭学習等によって、数学に対して主体的に取り組む姿勢が強くなり、理解度を高めていると考えられる。
- ・興味・関心をもてるような社会の事象と結びついた課題設定やICTを活用した効果的な協働学習等を実行することで、活発な話し合い活動を行う姿が見られた。

課題

- ・目標の提示と振り返りを行うことで、生徒自身が意識して課題や目標等の設定をして、授業に取り組めるようにする。
- ・家庭学習の徹底を図り、基礎・基本の学習の定着をより強める。

令和7年度 授業改善推進プラン 成果と課題

担当教科（ 数 学 ） 学年（ 3 学年 ）

目指す授業

数学の楽しさやよさを実感し、主体的に学習できる授業



授業・アンケート等の課題分析

- どの単元にも積極的に取り組む生徒が多かったが、1年間でさらに増加した。
- 活動内容をきちんと理解して授業に参加しているため、自主的に活動し、グループでの学び合いが円滑に進められた。
- どの取り組みも積極性が感じられ、主体的に学び合い学力の向上が見られた。



成果と課題

成果

- 問題演習を中心として、生徒同士で考え、解答を導き出す活動を取り入れることで、多くの生徒が学ぶ楽しさを感じていた。
- 生徒にとって身近な数学の題材を教材として使用することで、数学の素晴らしさや身近に感じることで、主体的に学習をする姿が見られた。